

## [014] 中国文学論集表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/9886>

---

出版情報：中国文学論集. 14, 1985-12-31. 九州大学中国文学会  
バージョン：  
権利関係：

編集後記

岡村教授の退官を間近にひかえ、九大中國文學會も一つの大きなきり目を迎えようとしている。そのような中『中國文學論集』第十四號は、諸般の事情があったとはいえ、従來に比して量的に多少減少せざるを得なかったのは、ひとえに編集子の非力の成す所であり、深くお詫び申し上げる次第である。しかし、創刊號の卷頭の言にもあるように、各自ほんとうに訴えたい心があつてこそこの雑誌は意味があるのである。「書かなければならない」という義務よりも、「書きたい」という自由な欲求を、ここでもう一度深く思いなおしてみることゝ悪くはないであらう。

昔、炎帝の娘女娃は、東海に遊び浪におぼれて死んだ。死して後、その魂は精衛という鳥に化し、常に小石を口に銜み、自分の命を飲みこんだ海にそれをひとつひとつ投げ込んだという。思うに「書く」という我々の行爲は、精衛填海の努力のようなものであるかもしれない。そして大海とは、我々と古典との間に無限に廣がる距離である。我々は、一瞬にしてその大海を飛びこえる可能性を彼方に悲願しつつ、日夜小石をひろい續けてゆかねばならぬのであらう。

(牧角悦子記)